

「福祉の充実」、「安心の保障」 が解決の道

—— 社会保障を巡る議論に望むこと

田部井康夫

（「家族の会」理事、介護保険・社会保障専門委員会委員長）

●消費税増税の決定

「社会保障と税の一体改革」の名の下で、消費税をまず8%、やがて10%に引き上げることが決まりました。しかし、反対の声も強く、賛成した人でも、社会保障の水準を切り下げられては困る、でも国の財政再建も大事だ、その両立のためにはやむを得ない、との思いの人が多かったのではないのでしょうか。その思いを形にすることが、「社会保障と税の一体改革」の本質であったはずですが。

●自民党政権の再登場

昨年、総選挙があり、自民党、公明党が多くの議席を獲得し、政権復帰を果たしました。その自公政権は、社会保障のあり方を議論する社会保障改革国民会議の結論が出ないうちに、早くも、生活保護費削減の方針を発表しました。また、その経済政策を見ると、消費税増税の大きな目的であった財政再建など眼中に無いかのような政権運営が目立ちます。このままでは、「社会保障と税の一体改革」とは何だったのか、何のための消費税増税だったのかと思わざるを得ません。

●国民会議等の議論に望むこと

こうした状況の下で、国民会議や社会保障審議会の議論が進んでいます。消費税増税という新たな負担が決定された今、私たちには、社会保障のあり方について発言する権利と義務があります。消費税増税に加えて、社会保障、とりわけ介護・福祉の水準が切り下げられることを到底容認することはできません。「家族の会」は、今後の介護保険制度の行方を左右する象徴的な項目として、

以下の3点を強く要望します。

- 1 要支援、要介護1、2の人を介護保険の対象からはずさない
- 2 介護サービスの利用者負担割合を引き上げない
- 3 介護支援専門員の介護報酬に利用者負担を導入しない

これらの項目すら守れないようでは、政治と国民との信頼関係は再び損なわれることになります。信頼関係を取り戻し、さらに制度の充実を目指さなければなりません。「家族の会」が目指す制度の方向性は一貫しています。

- 一 必要なサービスを、誰でも、いつでも、どこでも、利用できる制度
- 二 わかりやすい簡潔な制度
- 三 財源を制度の充実のために有効に活用する制度
- 四 必要な財源を、政府、自治体が公的な責任において確保する制度

●発想の転換を

政権交代による表面的な明るさにもかかわらず、困難の本質はなんら変わっていません。困難を乗り越えるには、経済成長がなければ福祉は充実できないという考えから、福祉を充実させ安心を保障することこそが、経済の健全な活性化をもたらすという考えへの発想の転換が必要です。

「家族の会」は、安心を保障する福祉を実現するために、「応分の負担」（力に応じた負担）の考え方を打ち出しています。むしろ、積極的に負担したいと思えるような施策を求めて、今後の議論に積極的に参加していきます。

会員さん からの お便り



介護生活あと何年？

兵庫県・Iさん 女

介護生活もかれこれ10年を越えると「あきらめ」というか、先のことを気にしないようにしようと思うようになりました。

「うん」「へえー」「そうなん？」「すごい」この言葉をぐるぐる答えるだけで、エンドレスな問いをうまくかわせるようになりました。是非おすすめです。

でも答えの必要な質問のときは本当にうんざり。1回目は答えるけど、2回目、3回目は聞こえないふりをしたり…。他の人に比べると、まだ、下の世話がないぶん楽かな？ でも、あと何年？と思うとゾーッとします。考えない、考えない…ですかね。

介護に関わる 仕事をしているのに

愛知県・Tさん 54歳 女

78歳の脳血管性認知症の実母を引き取り、半年になります。入院がきっかけで認知症が進んでいき、日常生活、デイサービス、ショートステイ先でトラブルを起こしたので私が介護生活に疲れてしまい、かかりつけ医の相談室に電話で話を聞いてもらい、母を入院させました。

介護に関わる仕事をしているのに、自分の母のことが上手くできない。自分がとてもつらかったです。

情報が欲しいので 入会しました

大阪府・Eさん 71歳 女

73歳の夫はアルツハイマー型認知症の初期と診断されアリセプト（現在5mg）を服用しています。現在は仕事（研究職）の面で、物忘れが出て困難をきたしているようです。

生活面ではさほど大きな問題はまだまだなく、介護も必要としていませんが、今後どのような状況へと進むのか不安です。食事面で気をつけること、サプリメント、新薬などを試すチャンスはどうすればできるのか等々情報が欲しいです。

半年ぶりに会ってみると

北海道・Tさん 49歳 女

昨年の春頃、半年ぶりに母に会った時、口数も少なく、表情も暗く、うつ病かと心配…。妄想のようなことを言っているようで認知症かと思い、秋に受診してみたところ、アルツハイマー型認知症と診断を受けた。5年位前からなっていたようで中等度と。薬を処方してもらったが、副作用（はきけ）が出て飲んでいない。デイサービスも申し込んでいるが、行きたがらない。父と2人暮らしで離れているので心配です。

周辺症状に 悩まされています

愛知県・Kさん 52歳 女

1年以上前より母の、父に対する嫉妬妄想からくる暴言、暴力に悩まされています。昨年8月にアルツハイマー型認知症の初期の周辺症状と診断され、服薬もしていますが、症状は治まりません。認知症が進み、

ボンヤリするまで待つしかないとのこと
です。

父と母を離すことが簡単な解決策とは思
いますが、母は8割以上はまともなものと、
父も透析患者で自宅での生活の持続を希望
しています。皆様のお知恵をお貸しくださ
い。

介護サービスを使って

兵庫県・Hさん 57歳 女

90歳の母を介護しています。私はフルタ
イムで働いており、残業も多く、十分に介
護しているとは言えませんが、介護保険の
サービスに助けられながら、仕事と家事と
介護をやっています。

時々、母の幻視、幻聴のため、夜中に起
こされるのがつらく、怒鳴ってばかりいる
自分が最低だと思えます。つらいです…。

個室ユニットは理想？

千葉県・Hさん 女

特別養護老人ホームの個室ユニットにつ
いてお願いいたします。特養の入居者のほ
とんどが認知症ですが、わけが分からなく
なって不安の中で生きている人が個室に入
れられドアを閉められると不安が増幅され
てしまいます。

認知症のない人はプライバシーの保てる
個室が理想ですが…、認知症の人は人の気
配の感じられる4人部屋のほうが安心して
落ち着いていられます。

また、新築の特養は厚労省の指導で個室
ユニットになっていますが、定員が少なく、
料金が高くなっています。これでは夫婦の
片方が入居したいと思ってでも庶民では払い
きれません。

規制を旧来型の多床室の特養に戻してい
ただけるよう老健局に働きかけてください。

認知症の症状に まっています

佐賀県・Yさん 51歳 女

79歳のアルツハイマー型認知症の母を
介護しています。

人と穏やかに話をしている、急に態度
が変わる。何もしない息子と同居している
が、国民年金を支払っていないことや健康
保険がないこと、毎日ほとんど2階で寝て
いて何もしない…などと、毎日私が聞かさ
れている。母は以前から解決のできない人
だったが、最近はひどくなってきて困って
いる。

不安や心配性が強いので、訴えがある
たびに実家へ見に行かねばならず、行っ
てみると「あそこがまだ痛い」と治らない
ことを怒り出し、病院の医師を呼び捨てに
して悪口をダラダラ言うのを聞かされるの
で、本当に毎日まっています。物忘れも
多く、探し物も多い。薬も身体に合わない
と言って勝手にやめてしまいました。

未知の世界に 入って行くような思い

千葉県・Sさん 72歳 女

81歳の夫を介護しています。現在は大き
な支障は感じられませんが、全く未知の
世界に入って行く思いであります。認知症
との向き合い方を頭の中では理解してい
ても、実際にはマイナスの方向に接してしま
うであろうかとの恐れ…。

悔いを多く残さないよう、認知症のいろ
んなことを学んでいきたいと思っております。
また、私自身もこれからどのような老
いの日々になるのかわかりませんので。

お待ちしております！

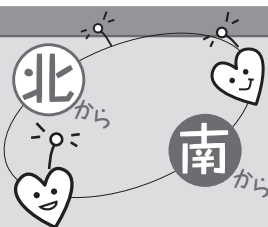
■『ぼ～れ ぼ～れ』へのご意見やお便りは「家族の会」
編集委員会宛にお送りください。

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内
FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheim.or.jp

115 支部だよりにみる

介護体験

今回は
山梨県



「のんびりと、でも、しっかりと」

山梨県支部 小野崎恵美子

山梨県支部版
(2012年12月号)

●変わりゆく義母

義母がアルツハイマー型認知症と診断されて8年になる。早期から「アリセプト」を服用していた効果で、症状は緩やかな下り坂が続いていた。そんな中でも、毎晩のようにダンスの中の衣類を何度も出し入れしたり、物盗られ妄想や作話など、一通りの症状があった。

しかし1年半前の夏から、いないはずの男の子が家の外にいて騒いで困るとか、実家の親類が表の通りに来ているからと、外へ出て行くというような幻聴、妄想が出てきた。また、他人に、私が棒で叩くから助けてほしいと言っていたらしい。その時の形相は、今まで見たことのない恐ろしいもので、口調も乱暴で、昔の義母からは想像もできないものであった。あまりの変わりように、家族はおろおろするばかりであった。

●服薬での対応

このような状態が3ヵ月続き、このままでは私がまいてしまうと思い、病院で薬を出してもらった。薬はとても効いて、幻覚も消え外出願望になる妄想も減った。しかしいつ変わるかわからない状況で目の離せない不安な日々は続いた。

秋に入ると今度は失禁が始まった。夜中から朝にかけて2〜3回トイレに起きるのだが、トイレや床を汚すタイミングはその日によって違った。リハビリパンツを下げながらトイレに入るので、あっという間に

尿の道ができてしまう。声をかけると機嫌が悪くなり、後が大変なので事前に止めることはできない。私はパジャマのままで無言で後始末をするしかなかった。

高血圧の薬も飲んでいるので、あまり薬を増やしてほしくなかったが、春になった頃、とうとう尿失禁の症状を改善する薬を出してもらった。その後、汚す回数も減り、やっと私の負担も軽くなった。

●認知症の進行

秋も深まる頃から急に認知症の症状がひどくなってきた。動作が鈍くなり、会話の反応も悪くなった。食欲は変わらず、デイサービスでもそれなりに元気なので、このまま様子を見ようと思っている。夜は良く眠るようになり、自分では起きなくなったので、夜中に一度起こしてトイレに促し、パンツを替えるとその後は、私も朝までぐっすり眠ることができるようになった。こうして症状は進行していくのだろう。

義母は心根の優しい素直で可愛い性格の人だった。4年前に亡くなった義父との夫婦仲も良く、30年大きなトラブルもなく同居できたのも、義母の穏やかな人柄のおかげだと、私は心から感謝している。

先のことはわからないが、後悔しないように、私なりにできる範囲で寄り添っていけたらと思っている。のんびりと、でも、しっかりと…。

担当は長野県支部です

“つどい”は知恵の宝庫

介護初心者の悩みに応える 70

顔をまともに殴られ、腫れが引くのに2週間もかかりました。



夫の暴力に悩んでいます。昨年秋、75歳の夫はアルツハイマー型認知症と診断されました。息子夫婦と小学校2年生の孫娘と同居しています。若い頃からすぐにカッとする性格で、認知症になっても相変わらず暴力をふるいます。孫娘にだけはとにかく優しいので、それだけが救いです。今後どのようにすればいいのか心配です。
(相談者 妻：70歳)



介護家族：観察して怒りの原因を推察
毎日、暴力を心配しながら介護しているご心労をお察しします。うちでもたいへんな時期がありました。でも、本人も人知れず悩み、ストレスをたくさん、ため込んでいるのだと教えられ、怒りにはそれなりの理由があると気づきました。怒る前の言葉や行動や怒りが高まっていく時の様子に注意を払うようにしました。観察して推察し、そしてできるだけ原因を作らないように気をつけてからは暴力が減りました。



看護師：こころは通じます ご主人に対し、無意識に、いやな表情をしたり、おびえたり緊張したりしていませんか。表情や雰囲気反応し怒りにつながります。心は通じます。無邪気に接するお孫さんにはとても優しいとのこと、「歌をうたう」というのも、心を穏やかにするために効果があるようです。お孫さんがおじいちゃんに歌を聞かせてあげるのも、怒りの爆発を未然に防ぐ工夫の一つでしょう。でも、暴力をふるう時は、まず本人から離れましょう。



医師：すぐに専門医に相談を 若い時から、怒りやすい性格だったとのことですが、認知症になって、さらに感情のコントロールができなくなっていることもあります。けがをするような暴力は、そのままにしておいてはいけません。本人や家族のためにも、すぐに専門医に相談してください。関わり方だけで

なく、時には薬も必要な時があります。



介護経験者：薬を使う場合は、服用後の変化に気をつけて 薬の処方は大切なのですが、私の母の場合、夜中に大声を出して近所にも迷惑をかけたので、お医者さんに話し「おとなしくする薬」を飲むようにしたところ、2〜3日まるで魂を失ったようになり、ビックリしました。服用させるなら、症状の変化を、正確にお医者さんに伝えましょう。



介護経験者：症状が進んでくるに従い暴力は減りました 夫のことを振り返ってみると、初期のころが最も混乱していて暴力・暴言がありました。初期は、霧の中にいて晴れたり霧がかかったりして、自分でなくなることへ不安や恐怖を感じるようでした。しかし、症状が進んで、不安や恐怖を感じなくなったのか、怒りや暴力は少なくなり、いつの間にか穏やかな夫になっていました。今が、一番大変な時期かもしれません。



世話人：力や知恵を借ります 認知症のご本人の心のウチを察することは、やはり、家族としてはとても高いカベでしょうが、どうか乗り越えてください。会員の中には、暴力で悩んだ経験のある家族もいます。力や知恵を借ります。「家族の会」は、あなたの応援団です。





『おかえりマーク』大活躍

山梨県
支部

支部では、「おかえりマーク」（衣服に付けられる連絡先を書いた名札）の普及活動に取り組んでいます。寒い夜、徘徊者を捜索中、他家の軒下にうずくまっていた方が「おかえりマーク」を付けており近隣の人が通報。また、別の日に「おかえりマーク」を付けた方

の挙動に不審を感じた高校生が通報。そして、お2人とも無事家族のもとへ帰ることができました。

「おかえりマーク」の活躍は、支部会員に大きな感動を与えました。「『おかえりマーク』が早く地域に馴染み、誰もが心と目を注ぐようになってほしい」と編集委員が語っています。

認知症のことを小学生に!!

大分県
支部

10月18日に宇佐市内の小学5年生児童に認知症の話をしました。宇佐市の世話人が綿密な計画を立て、まず、認知症のおばあちゃんと孫娘の寸劇。劇を見ての話し合い、そして、足立昭一・由美子夫妻から認知症のご本人と家族の思いを話してもらいました。

子どもたちから「認知症の人は大変な思いをして生きている」「優しい言葉をかけると嬉しいと聞いたので、これからそうします」と感想が発表され、先生からは「今日は認知症について正しいことを知り、私たちに何ができるか考える時間をもてました」と、まとめの話がありました。

『愛の賛歌』高らかに歌う!!

奈良県
支部

220名の参加者で開催された支部主催の「認知症フォーラム2012 奈良」（11月17日）のフィナーレは、ご本人の岡本一夫さんの愛唱歌「愛の賛歌」でした。事前に奥様から「今は、最初ぐらいしか歌えなくなっ

ているから…」とお聞きしていましたが、会員の城優子さんの伴奏で見事に歌い終わり、会場からのアンコールにも応えて2回目も堂々と歌い切りました。会場いっぱい拍手。岡本さんは自信に満ち溢れた声でお礼の挨拶。講演会のフィナーレは、感動につぐ感動が沸き上がったようです。

孫のような学生さんと!!

高知県
支部

11月10日、「本人（若年）のつどい」で、ご本人、「家族の会」、ボランティアの社会福祉科の学生さんなど15名で牧野富太郎生誕150周年菊花展を楽しみました。皆で「きれいね」と歓声をあげ、若い学生さんとの

交流でおしゃべりも弾みました。孫のような学生さんの笑い声に包まれ、広い会場を皆さん楽しそうに散策しました。

認知症になっても外出はうれしく、ニコニコ顔で高知名物のアイスクリンを食べながら「また、来たいね」と話しながら帰りの車を待たれたとのこと。

国際交流委員会発

イギリスの巻



「ケアでつながる地球家族」

■イギリスの認知症研究

イギリスの認知症にかかわる予算は年間約23億円、癌や心疾患の経費の2倍です。しかし、認知症に関する研究費は癌のわずか12分の1で、大学での研究体制も遅れています。

スターリング大学は1989年から「認知症サービス開発センター」を設置し、認知症に関する先駆的な研究と教育を続けてきました。今では同様のセンターが、オックスフォードをはじめ、イギリス各地の大学に設置されつつあります。

スターリング大学の研究センターでは、認知症の人のニーズを的確に理解するために、「コミュニケーション」「見当識オリエンテーション」「継続的な励まし」「環境」の4つを重視しています。

家族は、専門的なケアを展開する際の重要なパートナーと見なされています。たとえばどういう環境で落ち着くことができるか、食事の際のサポートの仕方、痛みや不快感をどのように表現するかなど、ケアに関する個人的な情報を提供しています。
(Guardian, 2012年12月11日より)

(国際交流委員 斎藤真緒)



憂さ晴らしの代行？



毎日新聞記者
夫 彰子（ぶ ちゃんじゃ）



衆院選挙の取材に奔走していた旧年末。過去、とある選挙へ立候補経験のある女性と話す機会があった。選挙の体験談はどれも興味深かったが、中でも特に印象的なエピソードがあった。

選挙期間中は連日深夜タクシーで帰宅していた彼女にとって、車内で運転手と雑談を交わすのが、つかの間の楽しみだった。ある晩、一人の運転手が自らの境遇を自嘲気味に語ってくれた。「同居の親が寝たきりで、介護と仕事に追われる毎日。入所施設を頼ることも考え探してみたが、タクシー運転手の収入ではとても無理だった。介護サービスを使えばいいと政治家や官僚は言うけれど、自分のような人間には手が届かない」。

乗客が選挙の立候補者とは気づいていない運転手に、彼女は試しに尋ねてみた。「今度の選挙で誰に投票したら良いだろうか」と。福祉を中心に、市民生活に直結するソフト面の政策を優先課題に掲げていた彼女は、自分の名前が出るかもしれないとの期待感も密かに抱いたという。しかし、運転手は即座に、政策で彼女とは対照的な候補の名を答えた。理由を問うと、「あの人は強そうだから、何かやってくれそうと期待できる」。その時に彼女がしみじみ覚悟した通り、選挙では運転手が挙げた“対照的な候補”が大差で当選した。

選挙で一票を投じる基準は十人十色だ。

政策を基準に選ぶ人も当然いる。感覚的イメージで判断する人も多いだろうし、「一番マシだ」という消去法や、現状への批判票の意味合いで投じられる票もあるだろう。有権者を取材すると、その人の投票基準がどんな内容であれ、大抵は「なるほど」と私自身も共感できる部分があるものだ。

けれど近年の選挙取材では、共感よりむしろ内心ギクリとさせられる機会が増えている。自らの苦境を訴える人が、一方では生活保護受給者を非難し、福祉サービスや年金を受ける高齢者、障害者を怨嗟しながら、「強い実行力」を備えた候補者を望むと答える。こうした有権者は今、決して珍しくない。彼らの話に耳を傾けていると、自身の苦境に対する鬱憤を、社会保障がなければ生きることさえ困難な人々へぶつける心の闇を目の当たりにしたようで、心が落ち着かなくなる。

前述の運転手が望んだ「何かやってくれる」の「何か」も、ある種の憂さ晴らしを政治が代行することを指すのだろうか。だとしたら、それは本当に「強い」政治だろうか。



連載 ③

オレンジプラン

への期待 「7つの視点」の現状とこれから



思い思いの話題があちこちで…

オレンジプランの「5.地域での日常生活・家族の支援の強化」。

「『家族教室』や『認知症カフェ』（認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場）の普及など内容の充実等を図る」に関連して、昨年9月から、

毎週日曜日、京都御所近くにある「街の居場所」で開かれている「オレンジカフェ今出川」を訪ねました。

（1月号の連載「京都文書のこころ」に開設者、武地一医師がカフェの様子を書かれていますので、ぜひお読みください）
（編集委員 鷲巣典代）

「認知症カフェの開設と普及」に向けて

●オレンジカフェ今出川の開設

「きっかけは、若年性や初期の人の行く場所がない状況を解消したいという思いでした。そこから生じる家族との軋轢を軽減する意味で家族支援も目指しました。また、ボランティアなど高齢者が力を発揮する場、そして認知症の人が働く場の可能性も探りたいと考えました。それらがカフェの形につながっています」（武地医師）

●開設から4カ月

スタッフは、運営が安定し、スタイルが出来あがってきたと感じています。

毎回、10時からミーティング。当日の予定や注意事項と役割分担を確認後、武地医師から個々の利用者への関わり方について助言があります。10時30分頃から利用者が訪れはじめ、おしゃべり、将棋、散歩など、それぞれの関心事やその場の雰囲気にあわせた緩やかな時間が流れます。また、家族が悩みを話す場もあります。3時30分に閉店し利用者が帰った後、再びミーティング。一日を振り返り、意見や情報の交換後、各自記録を書きます。記録はファイルに整理され、スタッフ間で共有し次回へとつなげていきます。

●カフェ成功の5つの鍵

「オレンジカフェ今出川」が本人と家族、そしてスタッフにも居心地のよい大切な場所となった背景には、5つの鍵があると考えます。

- まずは、「人」。本人も家族もスタッフも皆「認知症があっても地域のなかで暮らし続けること」への挑戦者です。また、運営企画、スケジュール調整と連絡、安全への配慮など、きめ細かな配慮のいる仕事を引き受けている人たちがいます。
- 次は、参加者共通の「思い」。「本人、家族はもちろん、スタッフもリラックスできる楽しい場所にしよう」という思いを皆が共有しています。
- 三つめは、「努力」。開催ごとに、情報や意見交換、記録を積み重ね、認知症カフェのモデルに練り上げていこうとする努力が続けられています。
- 四つめは、「場所」。交通の便がよく、オープンキッチンや、温かい雰囲気の家具調度を備え、しかもボランティア的な活動にとって支払いやすい利用料の「場所」の存在です。
- 五つめは、「運営資金」。期間限定ではありますが、京都府からの団体交付金を受けています。

カフェ開設と運営のために必要なこと

「人」「思い」「努力」だけではカフェの開設や運営はできません。「オレンジカフェ今出川」でも交付金が終了した後の運営は大きな課題です。

オレンジプランでは「認知症カフェ」の普及を図る」と謳われているものの、具体策は示されていません。普及のためには、助成金、場所の提供など具体的施策が必要です。「家族の会」は認知症

カフェの源流とも言うべき「つどい」の経験を持ち、また「認知症カフェのあり方と運営調査」も行っています。これらの活動を基にした提言は普及の原動力になるでしょう。

「オレンジカフェ今出川」に集う人たちの笑顔は、日本中のあちこちでカフェがオープンする日を信じさせてくれました。



今月の本人 A子さん 57歳（熊本県支部）

A子さんは57歳。3年前から認知症の症状が出始め、昨年受診されアルツハイマー型認知症の診断を受けました。

支部で毎月開催している若年期認知症のつどいにご夫婦で参加され、A子

さんは「私はアルツハイマー型認知症です。でも、みんな、心の中に悩みをもっているものです。お互いに励ましあいながら、やっていきたいと思えます」とはっきり言われたことが印象的でした。

皆で楽しく過ごしたい

●A子さんの思い

「皆で楽しく過ごしたいです」
「いつかきっといいことがあります」
「主人は子どもが好きで、私も子どもとたくさん触れ合いたいです」

「いろいろな人と楽しい話をしたいです」
「皆、いつ自分が認知症になるか分からない。だから皆で助け合っていけるといいです」
「同じ境遇の人と出会いたいです」
「早く、治る薬を飲みたいです」

■一日の過ごし方

お孫さんが家に来てくれて、計算問題の脳トレと一緒に取り組んでおられます。積極的にされますが、たまにむっとすることもある。脳トレは友人が買って来てくれて始めたそう

です。普段は息子さんも一緒にサポートしてくれているとご主人談。

息子さんとやる時よりもお孫さんが来てくれてやってくれた方が、やる気が出るそうです。



「若年期認知症のつどい」の家族の交流の様子。看取られた方も参加

●A子さんのご主人の話

「2～3時間だけ利用できるようなデイサービスはないのだろうか？」
「若年の人がいけるようなデイサービスがないです」
「近くのデイサービスは、知り合いがいるので行かせたくないのです」
「若年の人は高齢者との交流が難しいので、早く若年対応のデイサービスができるといいです」
「料理は二人で作っています。妻は野菜を切るのが上手ですので、積極的に切ってもらいます」

●最近のようす

デイサービスは利用しないで、サポート（生活支援）とご家族が協力して脳トレに励んでおられます。つどいでは、本人の思いや料理のレシピ、介護の情報について、A子さんが作成した資料を提供していただきます。

（熊本県支部世話人 上村妙子）

情報コーナー 交流の場

埼玉●3月16日(土) 午前11:00～午後2:30
／若年のつどい→越谷市中央市民会館
神奈川●3月10日(日) 午前11:00～午後3:00
／若年期認知症本人・家族のつどい→ほっとぽっと
新潟●3月2日(土) 午後1:30～4:00
／若年期認知症のつどい→新潟市総合福祉会館

富山●3月2日(土) 午後1:00～3:30
／てるぼうずの会ひなまつりのつどい→サンフォルテ2階介護実習室
静岡●3月16日(土) 午後1:30～3:30
／若年期認知症の人のつどい→富士フィナンセ東館3階福祉団体活動室
奈良●3月2日(土) 午前11:00～午後3:00
／若年のつどい→奈良市ボランティアセンター2階会議室
鳥取●3月24日(日) 午前11:00～午後3:00
／にっこりの会→地域交流センター笑

い庵「笑い庵カフェ&マルシェ」(米子市)
広島●3月9日(土) 午前11:00～午後3:00
／若年期認知症・陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター(広島市)
熊本●3月9日(土) 午後1:30～4:30
／若年期認知症のつどい→くまもと県民交流館 パレア会議室2
宮崎●3月11日(月) 午前11:00～午後2:00
／本人交流会「今日もろう会」→宮崎県支部事務所

詳細は各支部まで